

資料④2018年4月4日 第1回社会保障審議会年金部会（抜粋）

○小野委員 簡単な確認だけさせていただきます。資料1に本年秋ごろからということで、4項目のフリーディスカッションをされるということが書かれておりますけれども、一方で、資料2-1の26ページ、これは経済財政諮問会議の資料ですけれども、マクロ経済スライドのあり方に関しては、横に引っ張ってくる箱がないといえますか、何となくこれを見ると、一段落という感じを受けてしまうような雰囲気があります。前回の財政検証では、マクロ経済スライドのフル適用をした場合としない場合という効果は確認したのですけれども、たしか経済前提、賃金と物価が平行に動くという感じだったので、今回の年金スライドの改定に関しては、オプション試算のメニューの中に入っていなかったと思います。いろいろな意味で、こういったフリーディスカッションをしていくうちに、対策が必要となれば、それは対策を立てていくという理解でよろしいのかという点だけ質問させていただきたいと思います。

○神野部会長 どうぞ。

○年金課長 まず、原則論に関しましては、委員御指摘のとおりでして、フル適用の問題が検討課題から抜けたという認識はございません。

先ほどの社会保障制度改革国民会議の設定の中には、当然それは含まれているわけでございます。オプション試算も出しているわけでございます。

他方で、委員御慧眼のとおり、こういう図になっておりますのは、年金部会の委員の方々は歴史にお詳しいので、きょうは詳細を割愛してしまいましたが、キャリアオーバー制度も今年度、早速スタートしておりますが、御案内のように、キャリアオーバー制度自体は前回の検証の段階では入らない形の検証になっております。次回に関しましては、当然それを入れたような検証になりますので、委員の御指摘のように、それも見ながらの御議論も必要になってまいりますでしょうし、賃金の徹底に関しましては、33年度という形でございますので、正直、来年の財政検証を踏まえて、何らかの改革議論が必要ならばして、何かアクションを起こしてというサイクルから行くと、33年度はぎりぎりレンジに入ってこないぐらいになってしまいますので、そういった諸事情からしますと、フル適用そのものを主要課題として議論するには時期尚早かなという感覚は持ちつつも、短期か中期かになるかはわかりませんが、おっしゃったように数字を見ながらの議論は引き続き必要だという認識を私どもとしても持っております。

さまざま残された課題がある中で、どのぐらいそこに焦点と時間を当てて御議論の対象にさせていただくかは、どちらかというと小野委員の御指摘のとおり、数字を見たり、いろいろ世の中の動向を見たりして、委員の中での御議論も踏まえて、そういう形で徐々に決められていく性質のものだと私どもとしては今、整理させていただいております。